

(様式6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日

平成21年3月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2874600188		
法人名	医療法人社団 甲有会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	兵庫県豊岡市但東町中山679-1 (電話)0796-56-1166		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】 (20年12月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤13人, 非常勤10人, 常勤換算16.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	33,600 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(111,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		600 円

(4) 利用者の概要 (12月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 82.29 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	資母診療所
---------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

中学校校舎を改修して開設された1ユニットのホームから同敷地内に1ユニット時から培われたグループホームとしての機能を活かして開設された2ユニット目と共に職員が理念を基に利用者一人ひとりが豊かな自然の中で、地域の人々のぬくもりに触れ生活できるよう支援している。地域密着型サービスとしてのあり方を十分理解しており、積極的に地域と交流が持てるように常に検討し、取り組んでいる。利用者に対してもその人らしく個々のペースを守りながら生活できるよう担当職員とじっくりと向き合う時間をもち利用者個々の希望や要望に合わせた支援に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価直後には、評価結果から職員会議で改善事項を話し合い、現在改善に向け取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 評価を日々のケアの振り返りと質の向上に向け活用していくことを職員は理解し、自己評価を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 民生委員・公民館館長・家族・市職員・小学校の方が参加があり、職員の移動やボランティアの状況・利用状況・など報告し、現状の検討課題についての意見をもらい質向上に活かしている。ホームの状況を実際に見てもらわないと分ってもらいにくい点があると考え、普段の生活を一緒に過ごしてもらい会議を持つように取り組んで行くことを検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 普段より家族への報告をこまめに行い意見や思いを聴取するように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 近隣の地域行事への参加は行っているが、地域住民の頻繁な来訪がなく、管理者より地域への声かけを行いホームへの来訪を進めている。地域住民の来訪を進めるため、地域の広報誌にホームのことを掲載してもらっているが、よりホームや施設全体の雰囲気や状況がわかるような広報誌の作成を検討している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域の中でその人らしく暮らしていく事の重要性を理解し事業所として「豊かな自然の中で、地域の人々のぬくもりに触れる懐かしい生活を送ります」を理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で理念の捉え方の温度差はあるが、ケアに関わる中で理念について話をする他、会議の中でも理念について話し合いを持ち理念を共有し、実現に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の地域行事への参加は行っているが、地域住民の頻繁な来訪がなく、管理者より地域への声かけを行いホームへの来訪を勧めている。地域住民の来訪を勧めるため、地域の広報誌にホームのことを掲載してもらっているが、よりホームや施設全体の雰囲気や状況がわかるような広報誌の作成を検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を日々のケアの振り返りと質の向上に向け活用していくことを職員は理解しており、前回の評価直後には、評価結果から職員会議で改善事項を話し合い、現在改善に向け取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>民生委員・公民館館長・家族・市職員・小学校の方が参加があり、職員の移動やボランティアの状況・利用状況・など報告し、現状の検討課題についての意見をもらい質向上に活かしている。ホームの状況を実際に見てもらわないと分ってもらにくい点があると考え、普段の生活を一緒に過ごしてもらい会議を持つように取り組んで行くことを検討している。</p>		<p>より多くの意見がもらえるように、意見だけを漠然と引き出すだけでなく、テーマを事前に知らせてテーマを持って会議を進める取り組みを期待する。生活の知恵になるような情報提供・勉強会などを実施し認知症への理解を深めるための取り組みを検討し多方面の方の参加がしてもらえるような取り組みも期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村・但馬ブロックで開催される会議に参加し情報の提供を受け共有するようにしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>担当職員を決め毎月請求書と一緒に健康状態や普段の生活ぶりが分かりやすい写真入りの個別のお便りを作成し報告している。必要に応じて面会時や電話連絡などによる報告も実施している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より家族への報告をこまめに行い意見や思いを聴取するように取り組んでいる。</p>		<p>事業所より積極的な問いかけを行い意見を引き出すように取り組んでいく取り組みを期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が定着してきており、離職による利用者へのダメージは最小限となっている。職員はユニット固定しているが、普段より職員を機会あるごとにユニットを行き来し、利用者と同様顔なじみの関係を築くように取り組み離職や配置移動へのダメージを最小限にするように取り組んでいる。</p>		
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修のプログラムはケアハウスと共に作成し、実施している。現任者には、ケアハウス共に研修を実施し、実践者研修に計画的に参加を勧めるほか、研修案内を掲示し職員の段階にあった研修の紹介を管理者より行っている。</p>		<p>研修は実際の事例をあげて実際のケアについて対応方法の研修を盛り込み、年間の研修計画を作成し現場に則したホームでの認知症研修を行っていくことが望ましい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在ケアハウスと共に近隣の特別養護老人ホームなどの施設と職員の研修交流を実施している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>個々の利用希望者の状況に合わせ来訪してもらい短時間ホームで過ごすことを繰り返し徐々に馴染んでもらえるように取り組んでいる。また少数ではあるが、専門病院からの入所もあり、体験入居を行い入居してもらうなど個別の利用開始の調整を行っている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と共に普段の生活を送り、教えてもらうことも多くあり、共に支えあい、利用者がその人らしく過ごせる関係作りを行っている。認知症の進行で出来ないことが増えてきても職員が関わり個々の役割が継続できるように取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない会話や言動の中から利用者の希望、意向の把握に努める他、利用前の施設からの情報や家族からの情報などでも疎通が困難な利用者の意向の把握を行っている。		職員は得られた希望や意向を記録として残し共有している。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から得られた希望や意向をセンター方式の心身の情報シートを利用して整理し職員会議で気づきや意見を出し合い個別の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状況の変化時には、申し送りを利用しケアの統一を図り実施しているが、変更の計画作成が遅れているときがある。		新たな問題や本人・家族の新たな希望や要望がないか定期的な評価の実施が望まれる。入居者ひとり一人の予測される問題についてのケアを入れるよう計画見直し時には、会議を開き変化や状況を見逃さないようにする取り組みも期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 ^{の要望} に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院同行・理美容への同行・個別の散歩、季節的な行事の外出や病院受診を利用して外食を取り入れ、利用者の希望や趣味に合わせ対応している。現在、一人ひとりの入居者と担当者がじっくり向き合う時間を持つよう ^{に取り組んでいる} 。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に ^{し、納得が得られた} かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門医との連携も十分に取れる関係作りが出来ている。歯科の治療が必要な時に歯科医の来訪があり、口腔ケアのチェックは衛生士が来訪している。希望のかかりつけ医に受診支援し、薬切れや状態の変化に伴った受診支援もしている。普段の状態は同行した職員から説明、利用者への状況説明が影響がある場合は、書面を作成し情報提供している。ケアハウスにも看護師配置があり協力体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルをグループホームに合わせて見直しを行い再作成している。家族の意向の変化があるので意向をその都度確認することが必要であると考えており契約書も見直ししている。		意向と尊厳を守る介護の実現に向け、マニュアルを充実させターミナルの研修を実施し、今後のケアの実施にいかせるように取り組まれることを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーや尊厳を重視した、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけを行なっている。職員間での会話や連絡も利用者のプライバシーに配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や体調に合わせて過ごせるように支援を心がけているが、重度化により利用者に合わせた対応がしにくくなっている。利用者一人ひとりにあった柔軟な対応ができるよう職員検討していく必要性を感じている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買物から調理・配膳・後片付けなど利用者の状況に合わせて一緒に行っている。個別のノートを作成し日常の中で聞き取れた嗜好を記載している。献立は、入居者の方の意見を参考に、ホームにある食材や買物に行き食材を購入して調理している。きざみやトロミなどを状況に応じて対応している。胃ろうの方にも注入食(ラコール)で栄養価を充足させ経口では食事を楽しみに出来るように配慮している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>大きな入浴介助が必要な方は、安全性を考え毎日は無理であるが、時間的な制限はなく入居者の希望に応じた入浴を支援している。基本的には同性介助を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分から楽しみごとを見つけることが難しくなっているため、いろいろな場面設定を行い入居者一人一人が役割や楽しみごとが出来るように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者一人一人の日々の表情や行動を把握し外出や楽しみを無理なく出来るように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しておらず利用者が自由に居室や玄関から出入りが出来るようになっている。身体拘束マニュアルを作成しており現在見直しを行なっている。		見直されたマニュアルでの研修を実施し身体拘束排除について周知徹底していく取り組みを期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成しており、自衛の昼夜間ともに想定し避難訓練を実施している。(年2回)ヒヤリハットの集計に基づいて事故対策委員会で検討している。		事故予防に対する研修の実施が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	カロリーの過不足や栄養の偏りがないう 食材の栄養素を理解し、献立を立てバラン スの取れた食事の提供が出来るように配 慮している。同一敷地内施設の嘱託栄養 師に栄養バランスを定期的に確認して もらっている。食事の摂取量・水分量 を確認し必要な栄養・水分が取れる よう工夫している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用 者にとって不快な音や光がないように 配慮し、生活感や季節感を採り入れて 、居心地よく過ごせるような工夫を している	利用者が思い思いに過ごせるよう に椅子や家具を配置している。室内 の落ち着いた飾りつけだけでなく、ゆ ったりととられた窓から差し込む光 と見外の風景から季節感が感じられ る。室内は清掃が行き届いており落 ち着いた話し声や笑い声、時間に 応じた匂いがあり生活感が感じられ る。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用 者や家族と相談しながら、使い慣 れたものや好みのものを活かして、 居心地よく過ごせるような工夫を している	入居時より家族に働きかけ利用者 の使い慣れた家具や小物を持ち込 んでもらい利用者の趣味や生活が 感じられる居室作りが行われてい る。家具や小物の配置も利用者 と相談し適宜行っている。		

 は、重点項目。